

足立区立谷中中学校
校長 武藤 秀徳 様

足立区立谷中中学校
開かれた学校づくり協議会みつわ会
会長 相澤 明義

令和5年度 学校関係者評価書

1. 自己評価書全般について

今年度は新型コロナウイルス感染症が5類に分類され、コロナ禍以前の教育活動が徐々に復活し、学校公開や体育祭・文化祭等では、4年ぶりに地域も参観することができた。生徒たちが学校行事に意欲的に取り組んでいることがわかり、学校を訪れた方々は、ロ々に生徒の振る舞いや挨拶を褒めておられた。また、住区センターでのボランティア活動や吹奏楽部による高齢者施設等での演奏活動に積極的に参加できるようになるなど、自分たちの活動に自信をもたせるとともに、地域の一員として自覚ももたせていただいたことに感謝している。学力に関してはいくつか課題はあるようだが、学ぶ楽しさを感じながら授業を受けることができ、基礎的・基本的な学力が身に付いてきたと感じている生徒の割合が約90%であったことは評価できる。この結果は、生徒の前向きな姿勢とともに、教員が放課後や長期休業中の時間を利用して基礎学力定着に努めてきた成果であると考えられる。ただし、家庭学習に関しては、1時間以上勉強に取り組む割合は45%に留まり、短時間しか取り組めない生徒が少なくないように感じられる。もう一歩進んで、自ら学ぶ楽しさを感じられる指導の工夫を強化してほしい。また、生徒・保護者対象のアンケート結果から見て、全体的に落ち着いた環境の中で教育活動が進められ、生徒も学習や諸活動に積極的に取り組んでいることがよくわかる。この点は教員が絶えず生徒に目を配り、心を傾け、安心感を与えて安心・安全な学校づくりに取り組んでいるからであり、高く評価できる。

○活動の成果（目標の達成状況や取組状況、アンケート結果）について

- ・95%以上の生徒が「思いやりをもって友人と接した」「ルールを守って生活した」と肯定的に答えており、とても嬉しく思っている。
- ・「自分の考えや気持ちを安心して発表できる心理的安全性の高い学級の状態を実感することができた」の割合が約80%であるが、残りの20%弱の生徒たちの様子が気になる。それぞれの状況を把握し改善に努め、次年度は90%以上を目指してほしい。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

- 今年度も将来の夢や希望をもつ生徒が75%に留まってしまっている点は憂慮している。協議会として今年度は「木工教室」をはじめ、「パティシエ教室」、「中学生消防隊」、4年ぶりに「卒業を祝う餅つき大会」を開くなどしたが、さらに地域として生徒の自己肯定感育成に尽力したい。次年度はコロナ禍以前のように地域行事も復活してくると思われるので、生徒の活躍の場の設定を含めて、体験活動の充実に協力していきたい。地域行事への中学生の参加や職場体験の受け入れなど、町会・自治会等地域と、卒業生、PTA、協議会などが一層協力して連携を図り、地域清掃やリサイクル活動、ボランティア活動等の体験活動を充実させていく必要性を感じている。
- 不登校対策について、「学校がよく取り組んでいる」と捉えている保護者の割合が64%に留まっている。今後はさらに、地域と学校、保護者、関係諸機関が連携をとって不登校生徒への支援に力を入れていかなければならないと考える。生徒たちの見守りや子育て支援等を民生・児童委員等と連携して行ってもらいたい。

3. その他

協議会委員・地域の協力者が面接官として参加し、3年生対象の模擬面接を実施した。一人一人の生徒が、一生懸命に自分の夢や希望を語る姿に頼もしさを覚えた。中には、なかなか希望を見いだせない生徒もいるようだが、粘り強く生徒個々の長所を引き出せると良いと思う。学校運営協議会が、学校や保護者・地域との連携を更に強化し、生徒に夢と希望、自信と誇りをもたせる活動を推進していきたい。また、地域として、直接生徒を応援することができる面接という機会を与えてくれた学校側にも感謝したい。